Part II. Subgenus *Acroradula*, section 2. *Amentulosae*. Bryologist **53**: 253–275. ——, 1959. ibid. Section 3. *Dichotomae*. Journ. Hattori Bot. Lab. **21**: 1–52. ——, 1965. ibid. Section 9. *Densifoliae*. Rev. Bryol. Lichénol. **32**: 1–48. ——, 1966. ibid. Section 10. *Ampliatae*. Ibid. **34**(1–2): 1–81. Gottsche, C.M. et al. 1845. Synopsis Hepaticarum (*Radula* 253–262). Hamburgi. Grolle, R. 1970. *Radula Castlei* sp. nov. und Anmerkungen zur Gattung *Radula*. Bryologist **73**: 662–668. Kitagawa, N. 1973. Miscellaneous notes on little known species of Hepaticae, 26–50. Journ. Hattori Bot. Lab. **37**: 263–273. Stephani, F. 1884. Die Gattung *Radula*. Hedwigia **10**: 146–159. ——, 1910. *Radula*. In Species Hepaticarum **4**: 151–234. ——, 1924. ibid. **6**: 505–517. Yamada, K. 1973. New localities of *Radula fauciloba* and *R. miqueliana* from Japan (Okinawa). Misc. Bryol. Lichenol. **6**(6): 99–101. (in Japanese). ——, 1975. Memoranda on the type specimens of *Radula* taxa from the southeast Asia (2). Journ. Hattori Bot. Lab. **39**: 71–84.

*　*　*　*

国立科学博物館の井上浩氏が1966年にセイロン島で蘚苔類調査をおこなった際に採集された資料の中，ケビラゴケ属 *Radula* について研究した。10種を検出したが，このうち1種 *Radula ceylanica* は新種と考えられるものであり，5種がセイロン新産である。従来，セイロンからは9種が記録されていたが，各種類についての検討は極めて不充分で，将来の研究にまつところが大きい。

今回検出された9種は新種の1種を除き，7種がインドネシアから太平洋諸島に分布するもので，1種がマダカスカル，マスカレン諸島と共通である。このことはセイロンの本属が強く太平洋諸島のフロラの影響を受けていることを示している。

□小林義雄：**菌類の世界**　ブルーバックス 270. pp. 252, 講談社，東京 (1975, VII) ￥500,「驚異の生命力と生態を見る」と副題にあるとおり，種々のキノコの生態と形態とをじつにたくさんに述べてあって，それが次から次と登場してくる。その面白さに一気に読んでしまった。はしがきに「彼等に愛着を感じる境地に達した」とあるが，随処にそれが現われており，それを自分の業績と，世界中の研究とうまく合せている。いろいろな環境と菌，動物に関係する菌，植物に関係する菌，特殊な菌群，特殊な栄養を摂る菌，特殊な生態の6章から成り，この表題だけみると全くつまらなく見えるが，内容がまるで違って，人を惹きつけるのは一貫した研究態度が導き出した深みであろう。一読をすすめたい。　(前川文夫)